

## 第21回全国修学旅行研究大会 - 開催報告 -

～みんなで創ろう21世紀の修学旅行～

平成16年11月20日(土)、東京・お台場の日本科学未来館にて、(財)全国修学旅行研究協会主催「第21回全国修学旅行研究大会」を開催しました。本大会では、学校と修学旅行受け入れ側による実践発表と、各界の識者による「修学旅行と自己発見」をテーマにシンポジウムを行い、百名以上の参加者を迎えての実施となりました。



日時：平成16年11月20日(土)13時～16時30分

会場：日本科学未来館・7F みらいCANホール（東京・お台場）

主催：財団法人全国修学旅行研究協会

後援：文部科学省、東京都教育委員会、全国高等学校長協会、全日本中学校長会、全国連合小学校長会、日本私立中学高等学校連合会、全国都道府県教育長協議会、関東地区公立中学校修学旅行委員会、東海三県中学校修学旅行委員会、近畿地区公立中学校修学旅行委員会

協賛：都市農山漁村交流活性化機構、近畿日本ツーリスト株式会社、近畿日本ツーリスト協定旅館ホテル連盟、株式会社日本教育新聞社、株式会社観光経済新聞社

大会次第：

テーマ

「修学旅行における自己発見」

## 1. 主催者挨拶（財団法人全国修学旅行研究協会・理事長 中西 朗）

「第21回全国修学旅行研究大会が開催できますことに、感謝の念でいっぱいです。主催者を代表して御礼の言葉を述べさせていただきます。

文部科学省初等中等局児童生徒課課長補佐・新山雄次様をはじめ、近畿日本ツーリスト株式会社営業推進室部長・岡野正巳様、実践報告してくださる方々、シンポジウムを展開してくださる方々等、この研究会にお力添えをいただきましたことに心から御礼申し上げます。特に、会場をご提供いただき、何かとご面倒をおかけした日本科学未来館のご好意は忘れることはできません。

今、修学旅行は変化していると言われますが、本来の目的には変わりはありません。ただ、今までにも増して、「旅」の概念が強く打ち出されるようになったと思っています。旅とは、未知なるものへの憧れです。ですから、そこに新たな自己発見が可能となります。すなわち、訪問地の自然、文化、人々との出会いの中に自分の姿を投影することによって、体験的自己変革を導き出すこととなります。

その「旅」の出発点が修学旅行です。家族旅行以上に、子どもたちそれぞれが課題を持ち、自らの責任において学びを積み上げていきます。しかも、意図的・計画的に組織された学校という集団活動の中で実施されます。ですから、いろいろな形や内容で思い出が構成され、生涯にわたっての忘れられない事柄として深く心に残っていくのでしょう。

この修学旅行は、多くの方々によって支えられています。先生方のご尽力、ご両親のご負担はもとより、交通、宿泊を担ってくださる方々にご面倒をおかけしています。まさに、修学旅行での夢づくりをしていただいているのです。

本日の実践報告は、本協会のホームページコンクールで最優秀賞に輝いた文化女子大学附属杉並中学校の実践です。また、修学旅行受け入れのために愛知の地で地域文化の振興に携わっておられる実践談です。シンポジウムは「修学旅行における自己発見」をテーマとして、新しい修学旅行の夢を描いていただきます。

このセミナーの目的の一つに、各地の情報交換があります。その一環として、各地の情報パンフレットが寄せられていますので、ぜひご利用ください。

最後になりましたが、ご後援、ご協賛いただきましたことに深く感謝いたしますとともに、ご多忙の中ご参加くださいましたことに御礼申し上げます。

実り多い研究会になりますことを期待して、ご挨拶といたします。」

## 2. 報告提案（財団法人全国修学旅行研究協会・理事 柳川達郎）

「新しい修学旅行の方向性」

学びを中核とした修学旅行の充実発展についての一考察

修学旅行を通して特に「安全確保」について自己学習力の育成の強調

[全修協提案\(全文\)](#) (PDF)

### 3. 実践発表

#### (1) 修学旅行実施事例

##### [「学びつつ楽しむ九州への旅 ～長崎を中心とした課題学習の展開」](#) [PDF/20KB]

文化女子大学杉並中学校(第3回修学旅行ホームページコンクール文部科学大臣奨励賞受賞校)が実施した長崎修学旅行を事例として、調理実習やインターネットを活用した事前・事後学習での取り組み、現地での平和学習・体験学習の様子を紹介した。



発表者：文化女子大学附属杉並中学校・高等学校・中学部長 石井基一[いしゐ けんいち]氏

(略歴)昭和33年東京都出身。昭和56年、明治学院大学卒業後、東京都内公立中学校、同公立高等学校講師を経て、昭和60年より文化女子大学附属杉並中学校・高等学校勤務。現在、同校中学部長。

[文化女子大学附属杉並中学校・高等学校ホームページ](#)

#### (2) 受け入れ側実践発表

##### [「地域文化の開発と体験活動の振興 ～受け入れ側としての修学旅行への期待」](#) [PDF/35KB]

荘川高原(岐阜県)での教育旅行受け入れの現状と、各種体験プログラム・施設の概要について発表。



発表者：株式会社オハヨーサン代表取締役 金森英樹[かみん ひでき]氏

(略歴)昭和25年愛知県出身。昭和47年、法政大学経営学部卒業後、不動産開発会社に入社。ヨーロッパ、ハワイなどのコンドミニアム、リゾートホテルの研究など、不動産業とレジャー産業のノウハウを学ぶ。昭和53年、株式会社オハヨーサンを設立し、岐阜県荘川高原にて本格的にリゾートホテル経営に着手。現在は、「オハヨーサンホテル」のほか、「ホテルヴィラージュ荘川高原」を運営を通じ、教育旅行における体験学習の受け入れを積極的に推進している。

[オハヨーサンホームページ](#)

#### 4. シンポジウム

##### [「修学旅行における自己発見」シンポジウム](#) [PDF/125KB]

「修学旅行における自己発見」をメインテーマに、各パネリストの修学旅行に関わる体験、思いを語る

- (1) 知的好奇心が高まった自分の「旅」の経験
- (2) 修学旅行における体験活動の重要性はどこにあるか
- (3) 修学旅行の実施にあたり、学校をはじめ教育関係者に求められるもの

#### コーディネーター



亀井浩明[かみ ひろあき]氏

(略歴)昭和5年群馬県出身。東京教育大学教育学部卒業後、新潟県・東京都公立中学校・高等学校教諭。東京都教育委員会指導主事、同高等学校教育指導課長、指導部長を歴任。教育過程審議会委員、文部省(現文部科学省)の各種研究協力者会議を勤める。

現在、帝京大学名誉教授、日本連合教育会会長。

主な著書に『今、期待される教師の力』『学校づくりの決め手』『今、教師は子どもに迫れ』ほか多数。

#### パネリスト



新山雄次[にやま けんじ]氏

(略歴)昭和31年愛媛県出身。創価大学法学部卒業後、文部省に入省。初等中等教育局教科書管理課、同高等学校課、教科書検定課、職業教育課を経て、福島大学・電気通信大学庶務課長、東京学芸大学海外子女教育センター在外教育施設連絡調整主幹、初等中等教育局国際教育課国際理解教育専門官を歴任。現在は、同局児童生徒課課長補佐・生徒指導調査官・学校体験活動推進専門官。



野原 明[のら あき]氏

(略歴)昭和11年大阪府出身。京都大学経済学部卒業後、朝日放送記者。昭和40年NHKに入局、社会部記者、同部次長を経て、昭和58年からNHK解説委員に就任(～平成13年)。平成5年、NHK退職後から文化女子大学教授。平成12年から同大学附属杉並中学校・高等学校学校長に就任し、現在に至る。

主な著書に『日本の教育』『母親のための教育学』『平成の歌舞伎』ほか多数。



宮地信良[ミヤジ ノブヨシ]氏

(略歴)昭和22年東京都出身。千葉大学園芸学部を卒業後、17年間環境庁に勤務。その間13年に渡りレンジャーとして日光、尾瀬、妙高高原、足摺宇和海での活動に関わる。その後、自然公園美化管理財団日光支部で12年間、公園管理や日光湯元ビジターセンターの設立及び運営に携わる。平成13年からは、有限会社自然計画を設立し、奥日光をフィールドとしたネイチャーガイドや自然調査、環境教育等に取り組んでいる。



吉田 新[ヨシダ シン]氏

(略歴)昭和45年東京都出身。日本大学文理学部卒業後、近畿日本ツーリスト株式会社入社。同立川支店に勤務。私立の小・中・高等学校及び公立高等学校の国内・海外の修学旅行を中心に、教育旅行全般の営業に携わる。修学旅行での体験、ふれあいが、学校生活の貴重な経験となるよう、生徒の目線での企画・提案を心がけている。